

あかい れいせん いぶきちょう
関伽井の霊泉（伊吹町）

お大師さんが、中国から日本に帰られ、真言の教えを人々につたえられながら吉備国（岡山県）に来られ、そこから讃岐（香川県）へ里帰りなされたとき、途中船をこの伊吹島へ寄せた。そして、島のお不動さんに、ご参拝された。その時、お大師さんは、のどがかわいて清水（すんだきれいな水）がほしくなったが、水は、どこにもなかった。そこで、お大師さんは、持っていた杖でわたらの土を取りのぞくと、急に冷たい水がわきだしてきたという。

後年、八幡神社を勧請（神仏の霊を分けて、別の所に移し、祀ること）した時、この地に寺を建てたが、清水がたくさんわきだしたこの地にちなんで、泉蔵坊（泉蔵院の古名）と名づけたという。

この井戸は、関伽井の霊泉（ふしぎなほど病気やきずなどにききめのある泉）とよばれ、いくら干天が続いても、水がかわれることがなかったといわれていた。この井戸は山崩れで埋まり、井戸の下方の海岸一帯（現在の波切不動の下あたり）を、「水の下」と名づけている。

（「観音寺市誌」より）